

行雲流水

No. 6 1 令和3年6月17日発行

「感謝」に満ちた成長は、たくましい

校長 寒河江 正人

「こんなにも生徒たちは成長したんだなあ。」

昨日の壮行式を見ていて、感心しました。

「姿・形、体の大きさ」のことでは、ありません。

「心の内面、精神的な成長」のことです。

壮行式では、本校のリーダーたちが「**その熱い思い**」を伝え合いました。

生徒会長の藤原康太くんからの「**激励の言葉**」。

各部キャプテンたちの「**決意の言葉**」。

応援団長の東海林真詞くんからの「**応援の言葉**」。

これまで指導してくださった顧問の先生、コーチへの**感謝の気持ち**を表したり、

日々、支えてくれた保護者への**感謝の気持ち**を表したり、

自分たちの力だけで今があると思わぬ「**謙虚に感謝する気持ち**」を表したり。

ここまででも、中学生として、十分に立派だが、

昨年度、この場に立てなかった卒業生たちの**悔しかった思いを想像**してみたり、

今年度、**自分たちは大会を開いてもらえること、その舞台に立てることに感謝**したり、

次は君たちの番だから、**自分たちの姿を見てくれと後輩たちに呼びかけ**たり。

「自分のことだけ」を考えるのではない、「**かかわるすべての人のこと**」を考えられる。

「今まで当たり前だと思っていたこと」が、「**かけがえのないもの**」だと気付ける。

「**人間の成長**」というものは、こういうものかと考えさせられる。

「**中学生・思春期**」という時期は、実に成長が著しい。頼もしい。

昨年度、「コロナ禍」によって、「失ったもの」は大きいかもしれないが、

「失ったこと」によって「**気付かされたこと**」「**得られたこと**」もあるのだ。

「**感謝する心を知った生徒の成長した姿**」を見て、実感している。